

慣行比で資材ごとに

CO₂排出削減 可視化

農水省は、農作物の生産段階での二酸化炭素(CO₂)排出量を簡易に算定できるソフトを試作しました。農家が資材や燃料の使用量などを入力すると、地域平均と比較したCO₂削減率が分かります。結果を踏まえ、栽培手法や資材の使用量などを見直してもらうことが目的です。現在は米、トマト、キュウリが対象で、将来的には対象品目を広げて正式版をまとめます。

農水省がソフト

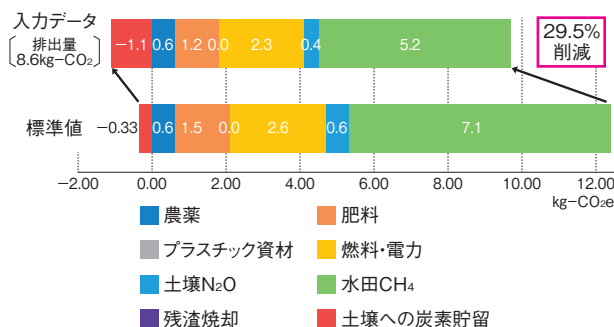
同省は環境負荷低減に向けた政策方針「みどりの食料システム戦略」で、2050年までに農林水産業のCO₂など温室効果ガス排出量を実質ゼロにする目標を掲げています。目標達成に向け、まずは個々の農業経営における温室効果ガスの排出量を把握してもらおうと開発しました。

表計算ソフトのエクセルを使い試作しました。栽培品目や面積、収穫量を入力します。その上で、農薬や肥料、プラスチック資材、燃料・電力の各項目で使用量などを入力すると、項目ごとに都道府県ごとの慣行農法と比べたCO₂の排出削減率が示されます。水田での長期中干しや、バイオ炭の投入など排出削減の取り組みも反映できます。10a当たり、または収穫物10kg当たりの排出削減率も算出されます。

同省は「特に地域平均より排出量が多い項目について、資材の使用量や栽培方法の見直しにつなげてほしい」(環境バイオマス政策課)と話します。利用希望者は、同省のホームページから申し込めば

農産物10kgあたりの温室効果ガス排出削減量 (CO₂換算値)

GHG削減量(対標準値) ※マイナス表記が削減分、プラス表記は増加		削減割合
合計	-3.60kg-CO ₂ e/10kg	▲29.5%
農薬	-0.06kg-CO ₂ e/10kg	▲8.9%
肥料	-0.32kg-CO ₂ e/10kg	▲21.3%
プラスチック資材	-0.00kg-CO ₂ e/10kg	▲22.7%
燃料・電力	-0.30kg-CO ₂ e/10kg	▲11.3%
土壌N ₂ O	-0.21kg-CO ₂ e/10kg	▲31.7%
水田CH ₄	-1.92kg-CO ₂ e/10kg	▲26.9%
残渣焼却	-0.00kg-CO ₂ e/10kg	▲0.0%
(吸収)土壌への炭素貯留	-0.80kg-CO ₂ e/10kg	▲246.1%



算定結果の出カイメージ (農水省提供)

メールでソフトを受け取れます。

ソフトは試行版との位置付けて、今後、利用者の意見などを踏まえて改良し、より多くの品目で試算できるようにします。合わせて、算出したCO₂の削減割合などを農産物の販売時に表示できるようにするための指針の策定も進めます。同省は、CO₂排出削減に配慮していることを販売時に示すことで消費者に選択を促し、環境に配慮した農産物の生産・販売の推進につなげたい考えです。